病 原 体	供試抗原1)	検査時期及び検査頭数		検査方法 <sup>2)</sup>	処 置
		時 期	頭 数		
アイノウイルス	JaNAr28	3か月毎	群5頭又は10%のいずれ	SN	抗体陽性群・同居群 <sup>3)</sup> 全殺
			か多い頭数		
カスバウイルス	K-47	n	n	SN	n
牛アデノウイルス	袋井	n	n .	ні	n
日本脳炎ウイルス	中山	11	n	ні	n
牛エンテロウイルス		n	n	SN	n
牛ライノウイス		n,	n	SN	n,
牛レオウイルス		n,	n	ні	n.
イバラキウイルス	No. 2	n .	n	ні	n
アカバネウイルス	JaGAr39 OBE-1	n	n	HI ELISA	n
オーエスキー病ウイルス		n	n	臨床症状	陽性群・同居群 全殺 抗
ブルータングウイルス		n	n	ゲル沈	体陽性群・同居群 全殺
牛コロナウイルス	掛川	11	n	ні	II
牛流行熱ウイルス	YHL	11	n	SN	n
牛伝染性鼻気管炎ウイルス	No. 758	II.	n	SN	n .
牛伝染性リンパ腫ウイルス	FLK-HK-11 FLK-SP	"	n	ゲル沈 受身H I	n .
牛乳頭腫ウイルス		"	n	臨床症状	II
牛パルボウイルス	BF-15	II .	II	ні	II
牛丘疹性口内炎ウイルス-偽牛痘ウイルス		II.	11	ゲル沈	"
牛RSウイルス	NMK7	II.	11	SN	"
ロタウイルス	Lincoln	II.	II.	SN	"
牛ウイルス性下痢ウイルス	Nose	IJ	II.	SN	"
悪性カタル熱ウイルス	ウシカモシカ型	IJ	II.	IFA	II.
パラインフルエンザ3ウイルス	BN-1	IJ	II.	ні	II.
コクシエラ バーネッティ		IJ	II.	IFA	ıı
マイコプラズマ		IJ	n	菌分離	陽性群・同居群 全殺
牛放線菌		IJ	n	菌分離	ıı
マンヘミア ヘモリティカ		IJ	n	菌分離	"
パスツレラ ムルトシダヒ		IJ	II.	菌分離	"
ストフィルス ソムニ炭疽		IJ	II.	菌分離	II.
菌		IJ	II.	臨床症状	n.
ブルセラ	メリテンシス	IJ	II.	AGG CF	抗体陽性群・同居群 全殺
サルモネラ		n	II	菌分離	陽性群・同居群 全殺 抗
ウシ結核菌、ヒト結核菌	青山B及び10	n	n	ツベルクリン反応	体陽性群・同居群 全殺
ョーネ菌	マイコバクテリウ	"	IJ	ヨーニン反応 ELISA	n

	ム アビウム				
レプトスピラインターローガンス	ヘブドマジス	II	II	AGG	II.
ピロプラズマ		11	n.	血液検査	陽性群・同居群 全殺 抗
アナプラズマ	マージナーレ	11	II	CF	体陽性群・同居群 全殺
流行性出血病ウイルス					
牛痘ウイルス、ワクシニアウイルス					
口蹄疫ウイルス					
ランピースキン病ウイルス゜					
狂犬病ウイルス					
リフトバレー熱ウイルス (					
牛疫ウイルス					
水疱性口炎ウイルス。					

注 牛の健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡した牛については病理組織学的検査等を行う。

- 1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。
- 2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。 H I : 赤血球凝集抑制反応 E L I S A : 免疫酵素抗体法 S N : 血清中和試験 I F A : 間接蛍光抗体法 A G G : 凝集反応 ゲル沈 : 寒天ゲル内沈降反応 C F : 補体結合反応
- 3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。
- 4) 国内で発生がない(又は重要度が低い)ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。